令和 4 年度　Faculty Development

「ギャップに気づくフィードバック」　開催報告

福島医大教員向け FD を以下の通り行いました。

１．目的：　・フィードバックに関する基本的な事項を共有する
　　・自分のフィードバックのスタイルを振り返る
　　・「ギャップに気づくフィードバック」を体験する
　　・フィードバックを受ける側の心理状態を追体験する

２．日時と場所：令和 4 年 6 月 27 日（月）17:00～18:30　（Zoom 開催）

3．タイムスケジュール：　（敬称略）

開始時間	所要時間	形式	講師・進行	内容
16:45				受付開始
17:00	5		大谷　晃司	開会の挨拶、講師・ファシリテーター紹介
17:05	25	講演	青木　俊太郎	「ギャップに気づくフィードバックのコツ」
17:30	5	導入	安田　恵	事例提示
17:35	20	GW	＊参照	フィードバック実践①
17:55	10		川井　巧	全体共有
18:05	20	GW	＊参照	フィードバック実践②
18:25	5		及川　沙耶佳	全体 Q＆A
18:30				終了

＊ファシリテーター　（敬称略）

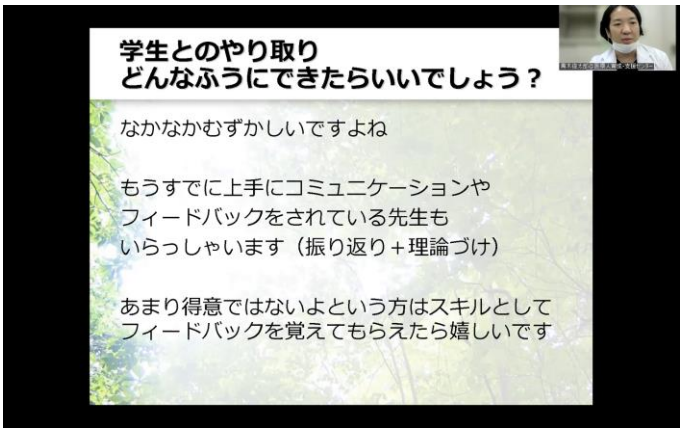
6 月 27 日（月）
大谷　晃司、亀岡　弥生、川井　巧、安田　恵、諸井　陽子、中村　光輝、赤間　孝洋、及川　沙耶佳

４．当日の様子

講演では、医療人育成・支援センター教員であり、臨床心理士でもある青木俊太郎先生からフィードバックの際の心の持ち方や、対人理解の必要性、いくつかの具体的な方法についてご紹介がありました。

また、フィードバックを「コミュニケーション」という枠組みで捉え、相手が ON になるコミュニケーションや、

OFF になるコミュニケーションについて実例を踏まえながらお話いただきました。



グループワークでは、架空の例を用いてグループ内で先生役と学生役の方を決めていただき、ロールプレイを行いました。また、ほかのメンバーの方々については「両者の心の動き」に着目しながらその様子を観察していただき、意見を共有しました。

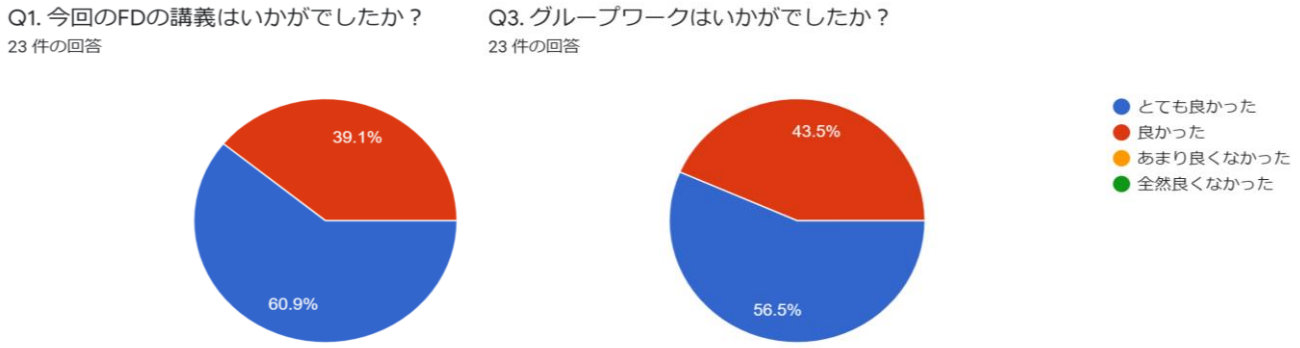
全体共有では、ロールプレイの中で気づいたことを数名の方にご発表いただきました。
その中で挙がった意見は以下の通りです。
「最初から核心部分には行かずに、周縁の話題から始めてみた」
「学生がどう思っているのかを、学生の言葉で話してもらうように引き出すことは難しかった」
「学生の良いところをほめるというのは、ケースによっては難しいことがあると感じた」
「学生生活に困難を抱える学生に、何か困っていることはないか、自分たちのところではこういう勉強会をやっているが、参加してみないか？などと誘ってみたが、これがとても良かったと思う」
「学生がうまく行かないと感じているところを、深堀するようなコミュニケーションをとると、対策が見えてくるのかなあと感じた」

続いて、別の事例についてもロールプレイを行いました。

最後に青木先生より以下のようなコメントがありました。
「皆さんのロールプレイを見せていただいたが、まず学生に質問をして、そこから得られた内容から話を展開させていく、という流れがとても良かった。また、どのように褒めるか、という点については、学生が何かに気付けたという、その事実にまず目を向け、それについて承認して褒めていくということを意識すると良いのかなと思う。」

6.　参加者アンケートより

当日は 30 名の方にご参加いただき、23 名の方から事後アンケートの提出がありました。(回収率 76.7%)。



参加者からのコメントの一部を抜粋します。

・ロールプレイングを行うことで、状況が理解しやすくなったが、より一層難しさも感じた。

・今回の学生事例に対する模範的なフィードバックの仕方をもう少し詳しく解説していただければ有り難いです。

・どうしても指導型スタイルになりがちだが、意識的に動機づけ面接を実施することの大切さが理解できた。

・面接の入り方ひとつとっても，様々な実践方法やその背後にある考え方があることをお聞きできて，たいへん勉強になりました。青木先生の講評にもあったように，皆様がたいへん真摯に学生や部下に向き合い，悩みながら日々の業務をおこなっていることをあらためて知り，勇気づけられました。

・もっとディスカッションの時間をいただければ、いろいろ議論できたと思います。

・先生役の方が動機づけ面接を意識してゆく中で、実際に生徒役の方の心の動きがみられ、動機づけ面接の重要さを実感しました。

・フィードバックは日々難しいと感じています。自分と相手との良い関係性づくりが基盤となることは本当にそのとおりだと感じました。フィードバックはもっと上手になれたらと思いますので、またぜひ機会をいただければと思います。

・時間がタイトでしたので、少し余裕を持たせた方が良いと思います。

・今回は問題を抱えている生徒の事例でしたが、他の生徒も含め日ごろからコミュニケーションが必要と思いました。気づきのあった FD だったと思います。

アンケートからは、教員の皆さんが日ごろからフィードバックについていろいろな思いを持たれていることがうかがえました。また、他者の意見を聞くことで学びが促進した、というご意見も頂きました。診療科や専門分野を超えた教員の交流の機会はあまり多くありませんが、このような FD が教員の皆さんの交流の場になれば、と思います。さらなる改善点も踏まえ、医療人育成支援センターでは今後も様々な FD を企画していきたいと思います。

文責　医療人育成・支援センター　及川